



伝統と真心に育まれた本物の「おもてなし」

下関 春帆楼

しゅんばんろう

明治二十一年 ふく料理公許第一号指定
 明治二十八年 日清講和条約締結会場
 昭和三十三年 昭和天皇 皇后両陛下ご宿泊
 昭和三十八年 昭和天皇 皇后両陛下ご宿泊



■日清講和記念館(入館無料)
 春帆楼が歴史の舞台となることになった証しが、春帆楼に隣接している日清講和記念館。当時の議国会場が再現されており、貴重な資料も展示されています。

■伊藤博文・陸奥宗光 両公銅像
 日清講和条約全権大使であった両公の銅像が春帆楼の庭に建っています。



アクセス

- 下関I.C. お車で10分
- JR下関駅 お車で5分
- 新幹線新下関駅 お車で15分
- 新幹線小倉駅 お車で30分
- 山口宇部空港 お車で50分
- 北九州空港 お車で40分

近隣の主な見どころ

- 志間神宮 徒歩で1分
- 火の山 お車で5分
- 海響館 お車で3分
- 門司港レトロ お車で15分
- 長府城下町 お車で10分
- 秋芳洞 お車で60分
- 萩 お車で90分

お問合せ

春帆楼本店
 〒750-0003
 山口県下関市阿弥陀寺町4-2
TEL 083-223-7181
 FAX 083-232-7980
www.shunpanro.com

しゅんばんろう 検索



を食べていましたし、伊藤公も高杉晋作ら幕末志士と何度も食べていたのでその味は知りつくしていたそうです。でも、公は初めてのような顔をしてその美味を賞賛、翌二十一年に当時の山口県令(知事)原保太郎に命じて禁を解いてくれました。こうして春帆楼が「ふく料理公許第一号」と広く知られるようになったのです。

春帆楼は、春の海をゆったり漂う帆船を中心に描いて、伊藤博文公が名付けたそうです。その壮麗な佇まい、格調と気品の高い雰囲気は数々の歴史の表舞台を偲ばせます。

明治二十年暮れ、伊藤博文公がふらりと春帆楼に顔を出しました。海が時化(しけ)続きで魚がまるで捕れない日で困り果てた女将藤野ミチは、お手討ち覚悟でご禁制のふく刺身一鉢を出しました。豊臣秀吉による「フク禁食令」(朝鮮出兵の際、肥前名護屋城に駐屯していた兵士にフク毒中毒死が多かったため、禁止した)が当時まで続いていて、明治十五年発布の刑法(旧刑法)の違警罪目に「河豚(フク)を食ふは拘留料に処す」と厳しく定められていた。しかし禁食令は表向きだけで、下関の庶民は昔から手料理でふく



下関は、新鮮な海の幸の宝庫。なかでも味覚の王者「ふく料理」は逸品。そのふく料理公許第一号が春帆楼です。ふくの中でも最上のとらふくを錦皿の絵模様が透けて見えるほど薄く引き、菊盛り、鶴盛りなど趣向を凝らして盛り付けます。ふくの他にも雲丹を初め、鯛、車海老、おこぜなど本場下関ならではの技と味で、旅情を満喫させてくれます。

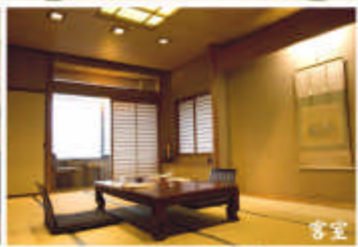
下関ではふぐを「福に通じ」ということで「ふく」と呼び慣わします。海峡の絶景とともに味わう本場下関のふく料理をご堪能ください。



天皇・皇后両陛下御座所「帝の間」



客室(貴賓室)



客室



大宴会場(鳳凰の間)

四階 特別宴会場「帝の間」昭和三十三年と三十八年にお泊りになった、昭和天皇皇后両陛下の御座所「帝の間」をそのまま保存、歴史の栄光を今に伝えていきます。眼下に広がる九州の山並みと、関門海峡の流れを前に、粋を結集した和の趣がごございます。

三階 客室・個室宴会場和室を中心としたくつろぎの空間をご用意しております。趣のある空間を創り出し、満ち足りたくつろぎをご提供しております。

二階 大宴会場・中宴会場 大人数の宴会用として「鳳凰の間」と「講和の間」をお客様の用途に応じて演出を変えてご提供しております。ご婚礼や会議、ご記念の会合など皆様大切な一時をご記念の思い出にする為に、心からのおもてなしをお届けいたします。



歴史という夢の行き来を見つめ続けてきた春帆楼には「伝統と真心に育まれた本物の「おもてなし」が息づいています。」

それは歴史が語る安らぎの空間。おいしい料理と共にご堪能ください。広いお座敷から落ち着いた個室まで、それぞれの空間が皆様の時間を演出します。

明治調のたおやかなガス燈のあかりのもと、石畳に歩を進めると、歴史を感じさせる春帆楼。黄金色の瓦が映え、その荘厳な佇まいが時代を偲ばせます。



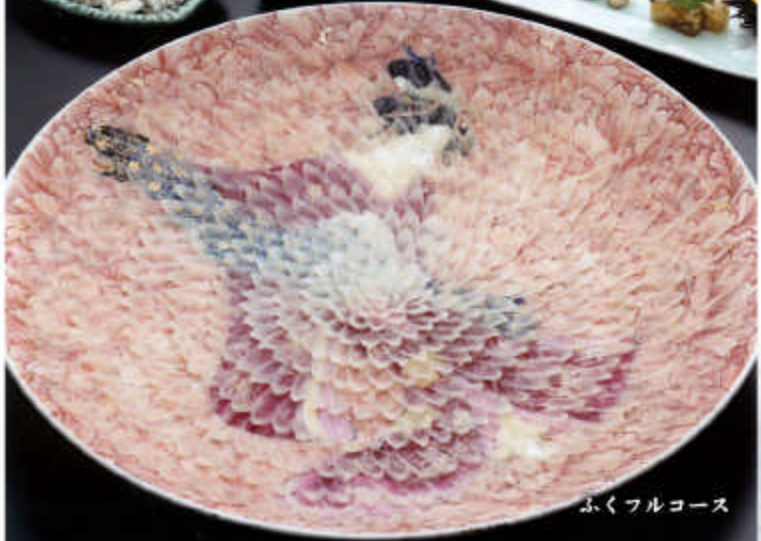
フロント・ロビー



華やかに魅せる薄造りという匠の技。厳選された素材と丹念な仕込みに一流の技と経験が加わります。



車海老フルコース



ふくフルコース



ふくちり鍋